

# ねまっつてジャーナル 2021冬号

折からの雪で一面銀世界です。初めまして、私たちは盛岡市農林部農政課所属の地域おこし協力隊です。盛岡のあちこちで活動していて、その内容も様々。そんな私たちからの挨拶と活動紹介をさせて頂く新聞です。



左から 高橋佑未 富岡美恵 知念侑希 川村(池内)絵美

名前でお気づきの方もいるかもしれませんが、父は沖縄の出身で母は青森県出身という北と南のハイブリットです。ちなみに私は東京から来ました。地域おこし協力隊としては主に野生鳥獣被害対策担当として盛岡全域（玉山地域を除く）



令和2年9月より着任しました、知念侑希(ちねんゆうき)と申します。

で活動をしており、現在は対策の現場に猟友会や各地域の方々に交じって同行したり、対策に関する勉強会に参加をしたり、狩猟免許を取得したりと知識と経験を蓄えている最中です。そんな中、着任してまだ数か月の私ですが、一つ気が付いたことがあります。どうやら野生鳥獣被害は彼ら動物の生態や特性を人間がよく知ることによって防ぐためのヒントが得られるようです。つまり、彼らについてよく理解することが対策の第一歩と言えます。敵を知り、己を知らば百戦危うからずや。少し話がそれますが、私は盛岡に来る前は写真事務所のカメラマンとして、その後はフリーのカメラマンとして写真や映像で情報を伝えることに関わってききました。全く畑違いの仕事に思われるかもしれませんが、人に伝える、という点では今もそう違いは無



使えるワナのサイズをハンターさんから教わっているところです。現在の法定猟具だとイノシシはかかり難く、かける場所の見極めが難しいというお話でした！

いと思っています。今後はあつめた知見を活かし野生鳥獣被害や彼ら動物の事についても発信を行なっていけたらなと思っています。

こんにちは！築川地域担当の高橋佑未（たかはしゆみ）と申します。千葉県から移住し、令和2年の7月に着任しました。

幼少時代を海外で過ごしたことをきっかけに今までは海外の文化に目



を向けてきましたが、盛岡に来て価値観が大きく変わりました。四季によって変化する自然、地元の旬の食材を使った美味しいごはん、伝統的なお祭り



や行事は、どれも自分にとって新鮮で、日本にも自分が知らないことがたくさんあると気づきました。

築川地域は、盛岡の中でも特に豊かな自然と昔ながらの暮らしが残っている地域です。その築川地域の歴史や文化をわかりやすく、子どもたちや若い世代の人たちに伝えることが地域おこし

協力隊である私の役割だと考えています。まずは築川地域についてよく知るために地域の方と座談会を行い、地域の歴史や現在の暮らしの様子について伺っています。今後



は地域のみなさんと一緒に築川地域の新しい地図をつくりたいと思っています！



大ケ生で活動している富岡美恵（とみおかみえ）です。

私は平成30年の9月に東京から引越してきました。大ケ生の南部曲り家で暮らしながら、様々なイベントを行っています。お花見カフェ、流しそうめんと蛸を楽しむ会、ギターとダンスのコンサート、ほろき作り体験教室などを開催してきました。今年の春にコンサートを開催予定なので、ぜひいらしてください。

昨年の夏は「大ケ生ブルーベリー活用プロジェクト」と銘打って、大ケ生のブルーベリーを県内外の10店ほどの飲食店に販売し、様々なメニューに活用してもらいました。その様子をSNS



大ケ生のブルーベリーが素敵なメニューに

で紹介することで、ブルーベリーをきっかけにして、大ケ生の魅力を多くの方々にお伝えできたかなと思います。また、矢巾町のカフェに依頼して作ったブルーベリージャムを、10月の農業まつりで販売し、とても好評でした。今年も継続したいと思っています。

「広報もりおか」12月1日号に、インタビュー記事が掲載されていますので、読んでいただけたら嬉しいです！

### 盛岡移住4年目の…

昨年の5月まで大ケ生地域で地域おこし協力隊をしていました。た川村(池内)絵美です。卒業後も引続き大ケ生の方々にお世話になっていきます。卒業後は法人を立ち上げて伝統文化、自然、暦の行事などに触れる体験を世界中の方々に提供しようと準備していましたが、コロナ禍に

なつたので…焦らずゆっくり立ち上げよう、と準備を続けていた最近です。協力隊活動は終了しましたが、そこで全部を終わりにするつもりはなく、これまでの3年間で繋がった方々や、盛岡の風土を生かした仕事を作りたいと考えて住み続けています。協力隊になる前は映画、ドラマの制作スタッフでした。作品創りの魅力は様々なプロが丸となって物語を表現していくこと。演技、美術、メイク、衣装、カメラ、照明、音、その土地のプロも活躍します。現場は刺激的なことがばかりです。ここ盛岡でも変わらず様々なプロに出会い刺激を受け続けています。映画になるか、自ら体験するゲームになるか、カタチは変わりますが、ここでも「ものごと」で人とつながり続けたい。今後ともよろしく願います。



次回は春号でお会いしましょう！